

平成 30 年度

法人運営事業報告

社会福祉法人

わらしべ舎

○重点目標についての取り組み状況

1. 現事業の支援体制を見直し、今後の事業展開も含めた支援体制を確立していく

法人は施設事業として、生活介護事業（エコ班）、就労継続支援B型事業（カレー班、せっけん班）、共同生活援助事業、レスパイト事業を行っています。平成30年度の通所率は、全体平均は96.9%で、事業別では生活介護事業98%、就労継続支援B型事業96%となりました。利用者のほとんどが休むことなく通所した結果となりました。今後は、この通所率を維持しながら利用者の重度化、高齢化に伴う支援体制の在り方を検討していく必要があります。一方で共同生活援助事業については、4か所のグループホームを設置し、地域生活を支援してきましたが、宿泊率をみるとホームによってバラツキはみられますが、平成30年度は全体の宿泊率が約60%となりました。施設の休業日等に帰省する利用者が多いため、このような数字になっています。そこで、9月以降について支援体制の見直しと生活の充実を図るために支援職員を1名増やし支援にあたってきた結果、微増ではあるが宿泊日数が増加しました。今後は、グループホームでの生活を中心にした、自立生活を送るために更なる支援体制の充実を図っていく必要があります。レスパイト事業については、登録者35名（法人内17名、法人外18名）で、平成30年度の利用実績については、年間総介護時間は前年度より20%ほど落ち込んでいる反面、支援職員1人当たりの介護時間数は増えています。今後は新規利用者の受け入れや支援の充実を図るために専従職員の配置が必要となります。（各事業の平成30年度の事業内容報告は別紙のとおりです。）

2. 羽黒台の土地における中・長期計画の策定について

羽黒台の土地については、第二施設を開設するために取得したものであり、具体的な中・長期計画の策定は行わないが、平成30年度は第二施設開設へ向けた取り組みとして仙台市の障害福祉計画との関連もあることから担当部局との意見及び情報交換を4回（7・10・1・3月）行いました。また、法人内に第二施設開設に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、会議を2回（1・2月）開催し応募に向けて検討すべき事項の確認やこれまで開設された事業所の見学を実施しながらチームメンバーによるイメージづくりと意思確認を行いました。今後も仙台市の障害福祉計画等の情報収集を行いながら応募に向けた取り組みを行っていく必要があります。また、羽黒台の土地については、当法人が取得した旨を近隣住民へ伝える挨拶や除草作業（7・8・10月）を実施しました。現在更地になっている土地について、第二施設開設までの間、有効に活用していくことを検討する必要があります。

3. 人材の確保・人材の育成、支援者のキャリアアップを行っていくについて

人材の確保について平成30年度は4名の職員採用を行いました。また、次年度に向けてハローワークへの求人募集、求人サイトへの登録、学校訪問、就職説明会への参加等を通して、新たな人材確保に努めた結果、平成31年度に向けて4名の新規採用に結び付き、内3名については施設や利用者に早く慣れてもらうことからボランティアとして来てもらい育成に努めました。職員に対しては施設内・外の研修に参加する機会を通して育成に努めました。（施設外研修は7件8名参加）また、月1回のケース会議を開催し利用者支援について全職員で確認する機会を設けキャリアアップを図りました。

○その他

①法人の機能強化と運営の適正化ということで、6月から業務執行理事を配置した。毎月1回（月末）法人運営や施設運営における課題等について協議・検討をする場として経営者会議を開催して運営の適正化とコンプライアンスに努めました。

②他団体との関係については、仙台市知的障害者関係団体連絡協議会へ役員としての参画や共同による仙台市へ要望書を提出しました。

○会議開催状況

①理事会

第1回 理事会	5月26日（土）	食堂	理事6 監事2 事務局1	平成29年度法人・各事業報告、決算報告 他
第2回 理事会	8月4日（土）	食堂	理事6 監事2 事務局1	役員報酬規程（案）・役員費用弁償規程（案）他
第3回 理事会	11月17日（土）	食堂	理事5 監事2 事務局1	上半期事業・予算報告 補正予算（案） 他
第4回 理事会	3月16日（土）	食堂	理事6 監事2 事務局1	補正予算（案）平成31年度事業・予算（案） 他

②評議員会

第1回 評議員会	6月8日（金）	食堂	評議員7 理事3 事務局1	平成29年度法人・各事業報告、決算報告 他
第2回 評議員会	11月22日（木）	食堂	評議員6 理事3 事務局1	上半期事業・予算報告 補正予算（案） 他
第3回 評議員会	3月28日（木）	食堂	評議員5 理事3 事務局1	補正予算（案）平成31年度事業・予算（案） 他

③経営者会議

平成30年6月 ～ 平成31年3月	毎月1回 （月末）開催	理事長、業務執行理事、 施設長、課長、	施設運営・法人運営における協議事項、毎月の予算及び施設運営状況報告 他
-------------------------	----------------	------------------------	--

平成 30 年度

事業報告

- *多機能型事業所 わらしべ舎西多賀工房（生活介護・就労B型）
- *共同生活援助事業（グループホームわらしべ舎）
- *仙台市障害者家族等推進事業（ひだまりステイ）

社会福祉法人

わらしべ舎

生活介護事業報告

【平成 30 年度支援の重点方針】

- (1) 障害特性に応じた生活支援の充実
- (2) 健康維持に繋げる支援の充実
- (3) 作業活動の充実
- (4) 余暇活動の多様化
- (5) 売上向上に向けた商品開発・委託作業の拡大

【実施報告】

- (1) 毎朝のミーティング、週 1 回班ミーティング等を行い、支援員間のコミュニケーションを活性化し、情報伝達や共有、連携に繋がり、利用者の作業・活動・生活支援の充実に結びついた。
- (2) 各家庭、グループホーム、レスパイトと連携を密にし、情報共有を行い、利用者の健康状態を把握し、日中活動支援に活かすことができた。また嘱託医と看護師とも連携を密にし、利用者の体調不良や怪我等に対応し、必要に応じて通院支援も行った。
- (3) 作業場を固定せず、利用者本人の状態や意向を確認しながら作業の選択をすることで意欲的に取り組める利用者が増えた。
- (4) 利用者のみんなで意見を出し合う機会をつくり、自分たちでいきたい場所を決める「選択レクリエーション」を行った。
- (5) ・利用者のアートを取入れた新デザインTシャツ販売を行った。
 - ・空き缶つぶし作業を始め、得意とする利用者が増えた。エコ班の大きな収益に繋がった。
 - ・初売りにて、利用者のデザインを取入れた「干支（亥）てぬぐい」を販売した。

【売上実績】

平成 30 年度売り上げ目標	売上実績	達成率
1, 3 0 0, 0 0 0 円	1, 0 0 5, 0 0 0 円 (千円以下切り捨て)	7 7 %

就労継続支援B型事業報告

【平成 30 年度支援の重点方針】

- (1) 作業能力の把握と向上（作業意欲の充実）
- (2) 心身の健康状態の把握と管理（健康維持）
- (3) 個々の実態に応じた社会性と生活能力の維持・向上（自立支援）と賃金アップ
- (4) 衛生管理・事故防止の徹底
- (5) 地域の美化活動を行うことで、地域社会との繋がりを持つ

【実施報告】

- (1) レトルトパッケージのデザインをカレー班全員の絵を取入れてリニューアルを行った。自分の絵がパッケージにあることで、自信をもってお客様に商品を進める利用者が増えた。
 - ・仙台駅東口エキツジでの定期販売を1年間出店を行ったことで、ショップの広報にも繋がり、新たな顧客獲得や出店依頼にも繋がった。また利用者体制を固定し、販売マニュアルを作成したことで、利用者自身で行える接客業務が増えた。
- (2) 月1回プチレクリエーションを取入れることで、利用者にとってリフレッシュできる機会になっており、レクを励みに作業意欲にも繋がっている。
- (3) 6月にレトルトパッケージのリニューアルを行い、それをきっかけに企業からの大口注文に繋がった。
- (4) 利用者の転倒事故から事故の再発防止を行い、支援体制と厨房内の作業の見直しを行った。
- (5) カレーショップ周辺の歩道や花壇などのゴミ拾いを定期的に行った。

売上実績】

平成 30 年度売り上げ目標	売上実績	達成率
23,000,000円	21,647,000円 (千円以下切り捨て)	94%

共同生活援助事業（グループホームわらしべ舎）

【支援目標】 地域との関係を築きながら、安定した自立生活を送れるようになる

【平成 30 年度支援の重点方針】

- (1) 安定した支援体制確保
- (2) 緊急支援体制の確立
- (3) 自立型／建て貸型ホーム毎のサービス内容確立
- (4) 余暇の充実
- (5) 支援者のスキルアップ

【実施報告】

- (1) 継続した世話人募集と声掛けにより、5 名の新規世話人採用を行うことができた。
しかし、安定した支援体制にはいまだ足りない状況は続いている。
 - ・ 9 月より、1 名女性職員の配置を行った。女性入居者を担当し、女性ホームの宿泊をメインに行っている。
- (2) 台風や悪天候が予測される場合、送迎等のバックアップ体制を日中活動場所と事前に確認を行った。
 - ・ 舎の看護師に入ってもらうことにより、入居者の服薬管理や健康管理の確立に繋がることのできた
- (3) 自立型ホーム…入居者が自分で衣類の洗濯から片付けまでできるよう、個人毎に合わせて行っている。
建て貸し型ホーム…女性職員の配置により、休日に近隣への散歩や買物を行う機会が増えた。
- (4) ヘルパーを利用しての外出で休日を豊かに過ごせるよう、情報提供を行ったり、またスムーズにより楽しめるよう、ヘルパーへの送り等を意識して行った。
- (5) 入居者のケース会議を舎の職員と合同で行い、情報共有と法人内の人材交流にも繋がった。
- (6) その他…地域の町内会長や班長、また地域資源でもある学校やコンビニ等への挨拶を行い、町内の清掃活動や消防活動等の町内会活動への参加を行った

仙台市障害者家族支援等推進事業（ひだまりステイ）

【事業方針】

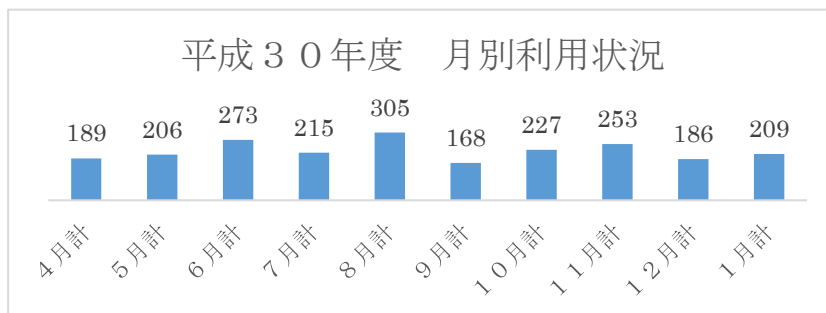
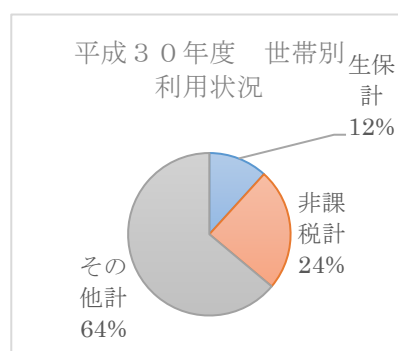
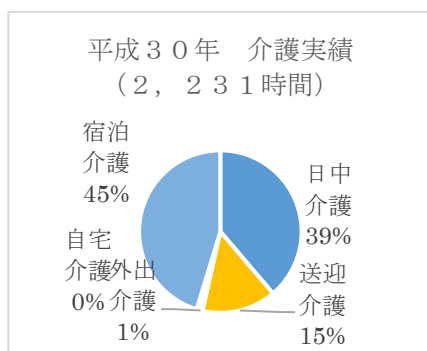
仙台市障害者家族支援等推進事業（以下「事業」という）は、在宅の障害児(者)等に対し、手軽に利用できる介護サービスを提供することにより、在宅の障害児(者)及びその家族の地域生活を支援する。

【平成 30 年度支援の重点方針】

- (1) 障害の重度化に対応するため、より専門性の高い支援体制をつくる
- (2) 利用者が過ごしやすい環境の工夫や整備を随時行う

【実施報告】

- (1) 他のレスパイト事業所や相談支援事業所と積極的に情報交換し、利用者の情報共有と支援技術向上に努めた。
 - ・職員が介護人の介護現場に立ち会い、直接コミュニケーションを取れる時間を増やした。
- (2) 男女、年齢、障害の支援区分、種別、興味の対象も様々な利用者のため、余暇を過ごす遊び道具やDVD観賞環境を整え、また怪我や危険につながる恐れのある箇所のチェックを行い、整備を行った。
- (3) その他…
 - ・利用登録者 35 名のうち、法人内が 17 名、法人外が 18 名で、利用実績はそれぞれ法人内が 40%、法人外が 60%ほどであった。より緊急性が高いニーズを優先しているため法人外の利用が多かった。
 - ・新規介護人確保ができず、現在、介護人は全て法人内の人材で賄っている。



<一日の流れ>

8 : 45	職員出舎
9 : 30	利用者出舎 各班に分かれて作業・活動
12 : 00	昼 食 （カレー班は 12 : 30 と 13 : 20)
13 : 00～13 : 30	午後の作業・活動 休 憩
16 : 15	帰りの会・退舎
17 : 45	職員退舎

<平成30年度 主な活動>

月	主な行事・活動等	月	主な行事・活動等
4	三神峯公園さくら祭りお花見	10	わらしべ祭り
5		11	金剛沢児童館との大根掘り交流会
6		12	・クリスマス会 ・一泊望年会 ・インフルエンザ予防接種
7	宮床農園にてじゃがいも掘り	1	・新春書初め大会 ・初売りセール
8		2	
9	西多賀北町内会敬老会にて、歌の出演	3	・利用者表彰式 ・各班外出レクリエーション

※毎月クラブ活動（アート、スポーツ、音楽、スリムクラブ）

※4～9月 月2回 天沼浄化活動

※実演給食（わんこそば（7月）、うどん祭（11月）、バイキング（3月））